

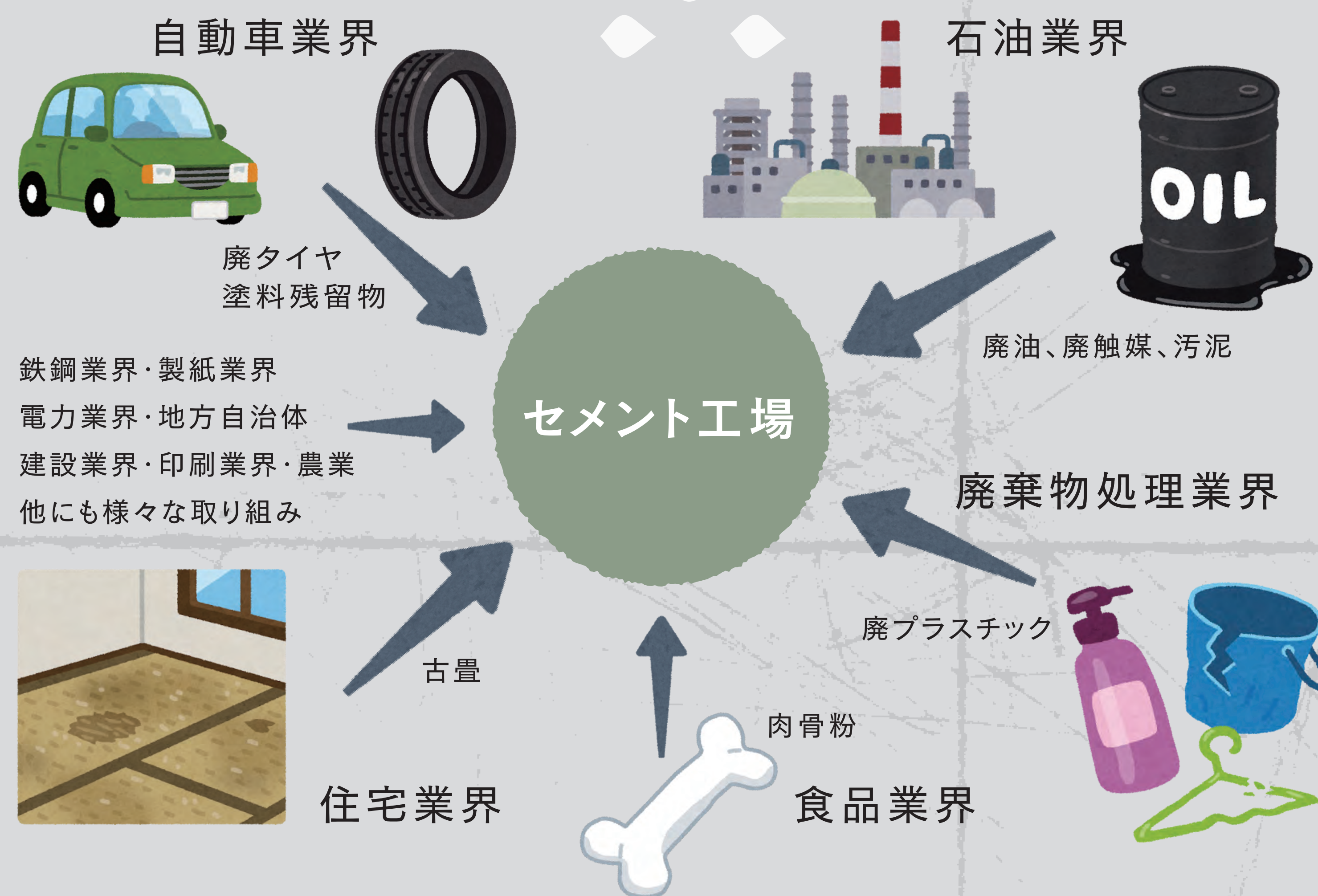
## 4 | セメントと未来

セメント生産の国内需要は、バブル期をピークに縮小傾向が続いています。公共事業が減ったことや労働者不足など、理由は多岐にわたります。

同時に、インフラ整備による環境破壊や工業による環境負荷への意識が高まったことで、現在のセメント業は循環型社会に向けて、他業種の産業とも連携し資源のリユースが推進されています。無限と思われた工業ではありましたが、有限を見据えた取り組みと日進月歩の技術革新が進んでいます。

一方セメントを用いた作品も、新しい素材が普及するなどして、1950～60年代頃よりは利用される機会が減っているようです。もちろん、他の素材と共に複合的に使用されるなど、新しい展開も見られます。

### 【循環型社会に向けた資源の再利用】



### コラム 今も残る遺構や文化財

宇部市に隣接する山陽小野田市には、セメント産業の遺構として、国指定重要文化財「旧小野田セメント製造株式会社竪窯」があり、現在に至るまで大切にされています。

宇部市には炭鉱の遺構などが残されています。石炭記念館の展望台は、実際に東見初炭鉱<sup>ひがしみぞめ</sup>で使用されていた竪坑櫓<sup>たてこうやぐら</sup>を移設して整備されたものです。

旧小野田セメント製造株式会社竪窯

- 2025年11月撮影



石炭記念館

- ときわ公園HPより転載 <https://www.tokiwapark.jp/sekitan/>



展望台から、まちや炭鉱のあった海が一望できます！